

2009年12月1日

出張報告書

京都FD開発推進センター

深野 政之

日程：2009年11月28日(土)・29日(日)

行事名：大学教育学会課題研究集会

出張先：御堂会館(大阪市中央区)・大阪市立大学(大阪市住吉区)

参加者：深野

プログラム

- 1日目 特別講演「教育への問いかけ」大阪大学 鷲田 清一総長
シンポジウムⅠ「学士課程における教養教育のあり方」
- 2日目 シンポジウムⅡ「『学士課程教育』はどうあるべきなのか？」
シンポジウムⅢ「『大学人』能力開発—学生を視野に入れて考える—」

シンポジウムⅠ「学士課程における教養教育のあり方」

後藤邦夫先生(学術研究ネット)、藤田英典先生(国際基督教大学)、奥野武俊先生(大阪府立大学)の3氏による報告があった。

後藤先生(元桃山学院大学)は、大学教育学会の重鎮であり「教養教育」の意義をあらためて認識し、カリキュラム設計に落とし込むことの重要性を話された。久しぶりにまとまったお話を聞くことができた。

藤田先生は、文部科学省から諮問を受けた日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」の教養教育に関する分科会の座長をされており、分科会で行っている調査や討議内容について詳しくお話をされた。その中で諸外国の大学教育に関する調査結果も報告された。

奥野先生は、大阪府立大学の教養教育体制の改革を進めている途上で学長に就任したこと、現在は大阪府の政策により改革が停滞していることなどの現状が報告された。改革を進めていく中で教員たちの「熱い心」に押し上げられたことが熱く語られた。

シンポジウムⅢ「『大学人』能力開発—学生を視野に入れて考える—」

学会の課題研究「SDの新たな地平—『大学人』能力開発に向けて—」グループによる報告があった。これまでの4回の企画を通して、学生を視野に入れたFDとSDの重要性、むしろ『大学人』としての能力開発が必要であることが強調された。

さらに桜美林大学の本郷優紀子氏による職員企画によるe-learning開発、秦敬治氏(愛媛大学)による学生参加のFD/SD企画の報告が行われた。

報告者の所感

大阪大学・鷲田総長による特別講演は、現在の教育問題を高等教育、科学技術研究と結び付けた素晴らしい内容であった。ただし集会の統一テーマ「学士課程における教養教育再考」は、この学会にとってはカバーする範囲が広すぎて、それぞれのシンポジウムで行われた討論は散漫になってしまった感がある。

以上